

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072500467		
法人名	有限会社KSカムレイド		
事業所名	グループホーム松の実		
所在地	福岡県大川市向島2665		
自己評価作成日	令和4年10月10日	評価結果確定日	令和5年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和4年10月19日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

<p>コロナ禍で今はあまりできないが地域の方との交流を大事にし散歩や買い物時には挨拶や会話をするようにしている。またコロナ禍で思うように外出ができないぶん工夫して室内で外出した気分を味わえるようにしている。できるだけ家庭的な雰囲気をだせるように努めている。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成17年に開設した「松の実」は昇開橋が近くに望める大川市内の街中で運営される改装型の2ユニットグループホームである。大川展望公園もほど近く散歩でも立ち寄り寄られている立地にあり近隣住民とも長年の交流で馴染みをもって友好的な関係を築いている。コロナ禍でも感染予防を徹底することで、これまでも罹患者はいなかった。以前は地域交流も盛んに行われていたが、いまは全体での外出行事は控えており、家族との協力の下一時帰宅などで対応するようにしている。外出できない分室内行事に工夫を凝らし、最近では室内設営でドウ狩りを楽しんでもらった。施設長の人柄とあいまって家庭的でアットホームな雰囲気に満たされており、職員も長く勤める方が多く利用者也安心して過ごされている。これからも地域を支える活躍が大いに期待される事業所である。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を共有するようにつとめ理念に基づいた介護ができるように取り組んでいる	地域密着型に変更された際に見直したが、開設当初に作られた「生き生き悠々と地域の中でその人らしく過ごしましょう」という理念があり、シンプルでわかりやすいため職員にもよく共有されている。施設内の至る所に掲示もしておりなじみ深い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で思うように交流はできていないがその中でも散歩の際に出会えた方々とはわずかな時間ではあるが立ち話などで交流を図るようにしている	近隣の住民とはほぼ顔なじみであり、散歩などで会った際にも気軽に挨拶を交わしている。コロナ禍では交流行事を控えており機会は少なくなっている。地元の催しの際には振る舞いなどの協力支援もしている。干支飾りを毎年利用者と一緒に作成して地域や市役所にも寄贈している。認知症キャラバンメイト活動もしており外部へも訪問している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関に張り紙などして色々な相談にのることをアピールしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で全員参加の会議は困難だが委員や地域の方から事前に聞き取りを行いその内容についても話し合うようにしている	コロナ禍の蔓延時期には全体開催ではなく、個別での資料配布と聞き取りで意見聴取を行っている。議事録は玄関先に設置し閲覧できるようにしている。家族は決まった代表の方に務めてもらい基本的に交代もない。資料としてアルバムや活動状況の報告をしており日ごろの様子をわかりやすく伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員の方とは良好な関係が築けていると思っている。市役所を訪問した際こちらからの相談とか向こうからの相談とかでよく話している状況です	運営推進会議の際にも市職員に参加してもらっており、事業所から相談事がある際も気軽に尋ねることも出来ている。市役所内にある展示スペースに作品を置かせてもらうこともあり毎年協力している。最近定期指導もあったが問題もなく今後のアドバイスも頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のカンファレンスで身体拘束の話合いをしている。最近の運営指導でも家族の意向より本人の意思が大事なのではとの意見も確かにと職員にも伝えている。	ベッド柵、車いすベルトの利用があるが、家族にも説明の上了承を頂き、解消に向けた話し合いや適宜の解除もしている。身体拘束廃止に向けたカンファレンスは毎月開催し、全員の状況を把握している。外出要望のある際は外を眺めたり、職員の見守りで対応する。	

R4.10自己・外部評価票(グループホーム松の実)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	いつも虐待については注意し研修にも行くようにして何が虐待になるかを理解するように努めている		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度は難しい内容なので機会があれば研修や講演会に参加するようにしその後は話し合うようにしている	入居前から外部の後見人を利用されている方が数名おり、やり取りを通して対応について理解を深めている。外部研修の参加もしており、内部での伝達も行う。最近ではハラスメントの規定についても事案があり学び直しの気風が高まっている。	職場内についてもハラスメントの規定を整備することが求められており、現在準備を進めている。制度周知がなされていくことに期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い理解していただけるよう努めている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日々の生活のなかで意思や思いをくみとるよう努めている。ご家族にも日々の様子などを伝えるとともに要望をお聞きするようにしている	支払いを現金払いでお願いしており、半数程度のご家族は月1回以上は面会に来られている。遠方でなかなか来られない方には書簡で返答もお願いして要望を聞き取っている。毎月利用者ごとの状態を報告するためのお便りと、隔月で写真付きの松の実だよりを送付している。家族アンケートの回収率が低い関係が疎遠になったり身寄りのない方も増えており苦慮している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が話やすい環境を作っていると思う。入社した際にも職員と会話するよう努めていて意見にも耳を傾けるようにしている	施設長も現場に入っていることが多いため、日ごろから双方向でコミュニケーションがよく取られており個別の相談なども気軽になされている。コロナ前は全体会議を行っていたが、今は小規模での開催と申し送りやチャットツールなどを活用して情報を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員を理解するよう努めできるだけスキルアップにつながるよう支援している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	出来る限り職員の意思や希望を尊重し働きやすい配置やシフトに取り組んでいる	男女比は半々程度で、年齢層は30～70歳代までと幅広い。以前は海外実習生の受け入れも行っていた。休憩スペースがある訳ではないが、それぞれで休憩時間も勤務と分けてメリハリをつけて取られている。研修機会も自発的に申し込んだり、内部で共有して案内されており、勤務として受講できるようになっている。	

R4.10自己・外部評価票(グループホーム松の実)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入社した際はもちろん研修等にも参加させ理解してもらうよう努めている	入社時に必ず新入職員研修を内部で実施しており、倫理・法令遵守やハラスメント、認知症高齢者の理解などをマニュアルに準じて学んでいる。市が主催する人権学習もあり、直近でも3名が受講して内部での資料回覧や伝達も行った。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ現場に出るようにし、職員への理解を得るようにしている。また他所で得た知識や情報などは職員で共有できるようにしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡会や懇談会、またキャラバンメイト等の活動を通して交流をはかっている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談があった時点から困っておることやわからないことなどを聞きするようになっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談があった時点から困っておられることやわからないことなどを聞きするようになっている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限りご本人の希望、ご家族の希望をお聞きし可能な限りのサービス提供を心がけている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とともに作業など行うことで存在意義を持っていただけるように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるかぎり預けただけにならないように利用料も振込みでなく月に1度は来ていただけるようにし、会話を持つ機会を持てるようにしている		

R4.10自己・外部評価票(グループホーム松の実)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でなかなか難しいが可能な範囲で関係が保てるように努めている。	半数程度は家族の面会や定期的なやり取りがあるが、疎遠になってきている方も多し。知人から連絡を受けて本人に繋ぐこともある。コロナ前は自宅近郊や馴染みの場所へドライブなどでお連れすることもあったが今は出来ない。	コロナが落ち着いてくれば、馴染みの場所への訪問や知人の来訪などが再開されることに期待したい。
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者。気の合わない利用者を理解したうえでサポートできるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍で色々難しいがその中でも割と良好な関係が保てていると思う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で情報の共有に努めできる限り本人の希望、意思を理解するよう努めている。	センター方式の一部も活用したアセスメントを行っている。意思疎通の難しい方とは、家族からの聞き取りや本人の反応などを観察することで意向の把握につなげている。主にケアマネが担当するが、対応にあたる現場の職員からも情報を聞き取って状態像を補完している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用になる前にご家族等から教えていただくようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録から毎日の評価を行い、担当者はひと月ごとにモニタリングのまとめをしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作る際利用者の思いはもちろんご家族の思いを職員間で話し合うようにしている。	利用者3名前後に1名の職員が担当としてつき、居室の管理や個別の状況把握などを担う。ケアプランは主にケアマネが作成し、毎月のカンファレンスで個別の情報を職員からも聞き取って反映させる。毎日ケアプラン内容を把握しながらケアが実施できるように実施チェックやモニタリングもされており周知がなされている。	

R4.10自己・外部評価票(グループホーム松の実)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を毎日記入し気になることは申し送りするようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態に応じて適したサービスができないかカンファレンス等で話し合い可能なものは取り入れるようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できるよう努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望をお聞きした上で支援するようにしている。	事業所の提携医もいるが、以前からのかかりつけ医を希望される方は継続されている。訪問診療は月2回あり、受診が必要な際も家族が出来ない場合は職員がお連れしている。看護師も3名在籍しており日ごろの健康管理もこまめになされている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態は常に報告するようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	わかる範囲での情報提供をこころがけ、お互いに相談している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、主治医とも相談話し合いを何度も持つようにし納得してのできる限りの支援を行うよう努めている。	最期まで支援を行い、これまでも複数の方を看取ってきた。退去後にはこれまでの生活をアルバムにまとめて家族に提供し喜ばれており、亡くなった後にも家族との交流が続くケースもある。入居時に意向を伺い、重度化の際にも改めて確認する。提携医とも協力体制が出来ており、夜間など24時間の支援を行ってもらっている。	

R4.10自己・外部評価票(グループホーム松の実)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会を実行している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練行い、地域の方にも日頃から協力を仰いでいる。	火災のほか水害想定訓練も実施しており、万が一の避難場所として関連施設の確保もしている。備蓄物として水、食料品、非常用浄水器を避難施設に確保しており、毎年更新もされている。全体で年に複数回防災訓練を実施し、消防署との合同訓練もなされている。AEDも設置しており、救急救命訓練もされる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者が日頃から注意するようになっている。	内部研修で接遇やマナーについて学んでおり、以前は外部での研修にも参加していたが最近では機会がなかった。写真利用も含めて個人情報の利用同意を頂いており許可を頂いたものだけに留めている。利用者への呼びかけも親しみを持ってもらいながらも敬意を表し、過度に馴れ馴れしくならないように注意を払っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から、表情から思いをくみとるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な事は支援し、難しいことは後日にでもかなえられるよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合った支援を心がけている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍になり外注するようになったが、外注先の担当者に利用者の好みを伝え可能な限り食材を検討していただいている。	以前は職員調理により三食提供していたが、2年前から昼夜は調理済み食材の配食を受けるようになった。朝とおやつは自前で調理しており、利用者到手伝ってもらうこともある。家族から果物など差し入れて頂くこともあり、今は干し柿を作っている。誕生日の際にはケーキを手作りしたり、行事ごとには特別食も提供している。毎月1、15日は赤飯と刺身の提供を定例化しており楽しみにされている。	

R4.10自己・外部評価票(グループホーム松の実)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注することにより支援できている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きを習慣づけている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のパターンを掴むようにしている。	利用者ごとの排泄チェック表があり、24時間、1か月分が管理できるもので記録している。原則的にはトイレ排泄をする形で支援する。入居時におむつ利用だった方も自立に向けた支援を続けることで状態も改善し自力排泄出来るようになることも多いという。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄をチェックし、主治医に相談している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望を取り入れ、また入浴剤、ゆず湯、しょうぶ湯など季節感も大事にしている。	概ね週2～3回の入浴にしているが、汚染があった際などは適宜シャワー浴や清拭等で保清している。時間帯は昼～夕方くらいまでで、順番は希望を聞いて対応する。ゆっくり入りたい方などは1時間近く入ることもある。リフトチェアやシャワーキャリーなどの設備も準備されている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々生活の中でその人を理解するよう努め支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方が変わったときはモニタリングに記入するようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人からはもちろんご家族からも聞き合わせるようにしている。		



R4.10自己・外部評価票(グループホーム松の実)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な中で支援している。	個別や少人数などでも日ごろから散歩の機会は定期的にとるようにしている。車いすの方も同様に外出機会を持つ。裏庭もあり、催しなどで使うこともある。コロナ前は季節ごとの外出行事を行っていたが、いまは少人数のドライブで近所の神社に行ったり、四季折々の花見などを行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の能力に応じてご家族とも相談している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る限り支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人に合わせた支援ができるよう努めている。	1, 2F にユニットが配置される造りでリビングや玄関には施設長や職員が利用者で作成した手作りで温かみのある造作物などが飾られている。トイレは各2か所で掃除も行き届いていた。廊下やリビングはカーペット敷きで転倒の際も怪我をしにくい。感染予防のためオゾン発生器で館内消毒を行っており、パネルカーペットのため汚染時も交換することで清潔にされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い中で工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る範囲で工夫している。	和室仕様もあるが、要望で洋間化したり適宜変更する。テレビや家具などの持ち込みも自由である。介護ベッドも希望があれば施設側で準備する。居室の位置により間取りが若干違っており、収納スペースがある部屋もある。窓からの採光もよく、それぞれの好きなように時間を過ごしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	独歩、車椅子などに合わせた工夫をしている。		